日程第1 一般質問

議長（高木将君） 日程第1，一般質問を行います。

通告順に発言を許します。

13番関英喜君の発言を許します。

〔13番 関英喜君登壇〕

13番（関英喜君） おはようございます。13番関英喜でございます。議長より発言のお許しをいただきましたので、通告書に基づき一般質問をさせていただきます。

最初に、観光行政について質問をいたします。

常陸太田市は合併により、面積が約372平方キロメートルとなり、茨城県一番の広さとなりました。山や川の自然環境にも恵まれ、観光資源も西山荘、瑞龍山、竜神大吊橋、プラトーさとみ、西金砂湯けむりの郷など、歴史や自然を生かした多くの観光資源があります。

また、農産物や特産物におきましても、県内トップクラスと言われる米、あるいは巨峰、ナシ、日本一と言われる常陸秋そば、里美のジェラートなど、多様な産物となり、今や県内でも上位の観光資源を持つまちと言っても過言ではなからうかと思えます。

合併後の平成17年8月に実施された市民アンケート調査の中で、常陸太田市が重点的に推進すべきものは何だと思えますかの回答の第4位に、観光の振興を挙げています。

ちなみに、第1位は少子高齢化対策、第2位は公共交通機関の整備、第3位は自然環境の保護、第4位は観光の振興、第5位は農林業の振興であります。

このように、常陸太田市においては、観光の振興がいかに重要であるかが、市民のアンケートでもわかります。第5次総合計画の3本柱の1つ、『まちの元気』をつくるを実現する意味からも、常陸太田市の観光行政のあり方は大変重要な位置づけにあると思えます。これまでも各地域で、四季折々に各種のイベントが開催され、地域の活性化や経済の発展に寄与してきたことは事実であり、地域の関係者に対しては、敬意を払いたいと思えます。

しかしながら、合併して2年半になった今日において、行政、観光協会、商工会、JA等が連携を深めて、統一的で持続的な幅広い観光事業を行い、以前より増して、観光の振興と交流人口を拡大することは、常陸太田市の地域経済の活性化とまちの元気をはかる観点からも、非常に重要であると考えます。

このような観点から、3点ほど質問をいたします。

第1点目は、この3年間を見て、観光客の推移はどのようになっているのか。地区別にとらえていけば、地区別にお伺いしたいと思います。

第2点目は、観光協会の一本化についてであります。現在、観光協会は、常陸太田市観光協会、水府観光協会、里美観光協会と、合併前と同じく旧地区別に観光協会が存在しております。既に、商工会、JA等は、合併して一本化が図られております。合併後の早期一体化の観点からも、観光協会は早い時点で統合すべきであると考えますが、この点について、執行部のお考えをお伺いいたします。

第3点目は、観光振興基本計画の策定について質問いたします。茨城県におきましても、平成18年度を初年度とする平成22年度を目標年度とする、新たな茨城県観光振興基本計画を作成しております。年間の観光客を5,000万人誘致するという目標を掲げております。

常陸太田市においても、第5次総合計画に基づいて、観光振興基本計画を作成する時期に来ていると判断しますが、この点について執行部の考え方をお伺いいたします。

次に、2番目の質問に入ります。公益団体について質問いたします。

第1点目は、公益団体の経営状況等について質問いたします。常陸太田市の公益団体は、1つ、常陸太田市公益事業団、2つ、水府振興公社、3つ、里美ふるさと振興公社、4つ、バイオマスリサイクルセンターの4団体があるかと思えます。ご承知のように、これらの4団体は、平成18年度から常陸太田市の公の施設の管理運営をする指定管理者に指定されております。

常陸太田市公益事業団は、西山の里観光施設の休憩所や茶室の指定管理者であります。水府振興公社は、水府竜神観光施設、水府ふるさとセンター、水府竜神ふるさと村、水府観光物産館等の施設の指定管理者であります。

里美ふるさと振興公社は、里美カントリー牧場、里美温泉保養センター、総合交流ターミナル等の施設の指定管理者であります。

指定管理者は、管理運営施設の利用状況や収支状況を、行政に報告する義務があります。去る8日の定例会初日に、経営状況を説明する書類として、各指定業者のトータル的な損益計算書が示されました。その内容を見ると、いずれも市の予算から出されている指定管理料の収入に頼った経営内容でございました。

常陸太田市行政改革大綱の中で、第三セクターの見直しについては、業務内容、経営状況、公的支援について点検・評価を行い、独立企業として運営できるような指導・監督を行っていきとあります。これらの公共団体の事業と、経営状況及び公的支援について、それぞれの施設ごとについて、どのようになっているかをお伺いいたします。

第2点は、公益団体のあり方について質問いたします。

合併前にそれぞれの地区で存在し、必要な機能を果たしてきた公益団体の中で、特に同じような機能を持つ水府振興公社と里美ふるさと振興公社の統合について、合併後2年半になる現時点で検討する時期に来ていると思われませんが、今後のあり方について、どのように考えているかを執行部の考え方をお伺いいたします。

以上で、1回目の質問を終わります。よろしくお願いいたします。

議長（高木将君） 答弁を求めます。産業部長。

〔産業部長 小林平君登壇〕

産業部長（小林平君） ご質問にお答えいたします。

第1点目、観光行政についてのご質問にお答えします。

初めに、観光客の推移についてでございますが、市内への観光入り込み客の状況につき

ましては、県で実施しております観光動態調査によりますと、平成16年度66万1,200人、平成17年度64万8,200人となっております。平成18年度については、まだ公表されていないところでございます。

市内5地点、西山荘、そば工房、竜神峡、ぬく森の湯、プラトーさとみの集計結果を報告してお答えいたします。市内5地点の入り込み客の総数は、平成16年度43万2,320人、17年度44万5,172人で、対前年度比は1万2,852人で、3%の増となっております。18年度は39万1,195人で、対前年度比は5万3,977人、12.1%の減となっております。

調査地点別では、西山荘が16年度9万8,251人、17年度9万4,830人、18年度7万7,518人で、18年度の対前年度比は1万7,312人、18.3%の減であります。

そば工房では、16年度3万5,276人、17年度3万5,759人、18年度3万1,489人で、18年度の対前年度比は4,270人、11.9%の減であります。

竜神峡では、16年度22万4,362人、17年度24万7,685人で、対前年度比は2万3,323人、10.4%の増、18年度は22万1,022人で、対前年度比2万7,583人、11.1%の減であります。

ぬく森の湯では、16年度6万7,806人、17年度6万9,844人、18年度5万6,320人で、18年度の対前年度比4,664人、7.6%の減であります。

プラトーさとみでは、16年度6,625人、17年度5,914人、18年度5,766人で、18年度の対前年度比1,488人、2.5%の減となっております。

県北地区におきましては、同じような低迷傾向にあるところでございます。

次に、観光協会の一本化についてでございますが、市内には現在、おっしゃられましたように、常陸太田市観光協会、常陸太田市水府観光協会、常陸太田市里美観光協会の3団体がありまして、それぞれ地域に根差した地域密着の事業を展開してきております。

さきに各観光協会の代表者会議を持った中におきましては、各団体とも合併を視野に入れた方向性を持っておりますので、当面1年先をめどに合併を目指していきたいと考えております。

なお、金砂郷地区には、現在観光協会の組織がありませんので、3観光協会の合併にあわせて、会員の勧誘等により、合併後の観光協会は、市内全域に網羅する組織としていきたいと考えております。

次に、観光振興基本計画の策定については、現在、観光振興方策を練っているところでございますが、将来的には観光振興基本計画の策定も考えていきたいと考えております。

次に、2点目の公益団体についての中、公益団体の経営状況等についてのご質問でございますが、産業部所管の施設、平成18年度についてお答えいたします。

常陸太田市公益事業団では、指定管理者として、西山の里桃源及び茶室の運営を行っております。入り込み客が7万7,518人ありまして、収入は指定管理料1,048万5,000円、営業収入では、桃源から6,110万7,000円、茶室から461万1,000円、

その他の収入が34万5,000円で、収入合計は7,654万8,000円であります。

支出は人件費、管理費、仕入れ等で、7,654万8,000円ありまして、差し引き、利益、減益はございませんでしたが、これら収入にあわせて必要な消耗品を購入したためでございます。

株式会社水府振興公社では、指定管理者として、水府物産センター、竜神大吊橋、水府ふるさとセンター、竜神ふるさと村等を運営しており、入り込み客が22万102人ありまして、収入では、指定管理料4,699万円、営業収入では、水府物産センターから1億1,771万8,000円、水府ふるさとセンターから8,514万3,000円、竜神ふるさと村から386万9,000円、水府観光物産館から896万5,000円、その他の収入が394万1,000円で、収入合計は2億6,662万6,000円であります。

支出は人件費、管理費、仕入れ等で、2億5,989万4,000円ありまして、差し引き673万2,000円の利益となっております。

財団法人里美ふるさと振興公社では、指定管理者として、里美カントリー牧場、里美温泉保養センター、総合交流ターミナル等を運営しており、入り込み客が6万2,086人ありまして、収入では、指定管理料2,900万円、営業収入では、里美カントリー牧場から6,223万3,000円、里美温泉保養センターから1億1,966万9,000円、総合交流ターミナルから447万8,000円、その他の収入が61万4,000円で、収入合計は2億1,599万3,000円あります。

支出は人件費、管理費、仕入れ等で、2億1,735万5,000円ありまして、差し引き136万2,000円の減益となっております。

また、有限会社バイオマスリサイクルセンターは、指定管理者として、地域資源循環型リサイクルシステムを構築するための事業として、パーク、木質端材などを原料に、パーク炭、チップ炭などを製造・販売しており、平成18年度は1,069トンの原料を取り扱っております。

収入では、指定管理料1,778万5,000円、営業収入で、再生処理事業と販売事業から639万6,000円、その他の収入が1万1,000円ありまして、収入合計は2,419万2,000円あります。

支出は人件費、管理費、製造経費等で、2,423万4,000円ありまして、差し引き、当期の純利益は4万2,000円の減益となっております。

次に、将来的な公益団体のあり方に関して、株式会社水府振興公社と財団法人里美ふるさと振興公社の統合などについての考えはとのことでございますが、それぞれの団体の設立経緯及び現在の経営、運営状況等々を踏まえまして、今後とも効果的な経営を推進するためには、当面、現状の形態で進めることがよいと考えておるところでございます。

以上でございます。

議長（高木将君） 13番関英喜君。

〔13番 関英喜君登壇〕

13番（関英喜君） 2回目の質問をいたします。

まず、観光行政についてでございますけれども、特に観光客の推移を見ますと、18年度が前年に対して、かなりマイナスになっているということでございます。もし分析をしておりますれば、その減少の原因はどのようなところにあるのか、質問したいと思います。

第2点目の観光協会の一本化でございますけれども、1年先をめどに統一していきたいということでございますので、できるだけ早い時点での一本化を要望しておきたいと思えます。

観光振興計画の作成でございますけれども、これも早い時点の作成をお願いしたいと思いますけれども、これに直接関係はないんですけれども、特に観光のPRとしては、観光専用のホームページが、かなり観光振興には有効だと思いますけれども、その辺のホームページの作成の予定があるのかどうか、その辺についてお伺いいたします。

2番目の公益団体についてでございます。経営状況等、細かくご報告していただきました。特に公益事業団、あるいは振興公社についての改善点なり、あるいは見直し点が指摘があるのかどうか、その辺を1点お伺いしたいと思います。

また、同じように、西金砂そばの郷、西金砂湯けむりの郷、物産センターこめ工房ということで、茨城みずほ農協が指定管理者として指定されていると思えますけれども、19年度の総代会資料によりますと、各施設とも黒字になっているというようなことでございます。振興公社と同じような施設の管理をしておりますので、ぜひともこのいわゆるみずほの状況等も参考にして、今後の経営に当たってもらいたいと要望しておきます。

有限会社バイオマスリサイクルセンターの経営状況についても、説明を受けました。これについても、経営改善計画等を立てているようでございますけれども、改善点なり、見直し点があれば、お伺いしたいと思います。

第2点目の公益団体のあり方でございますが、合併後初めての議会の一般質問において、それぞれの代表者から、今後の公益振興公社のあり方について、どういうふうにするかということを検討していきたいというような発言があったと記憶しておりますが、この点について、株式会社と財団法人という制度の違いはありますけれども、設立の趣旨にしては、新たな観光施設を柱として、地域経済の発展とか地域の雇用拡大、あるいは地域の活性化を目的とした団体であると認識しております。

この統合につきましては、手続等において、一方の団体を解散・清算して、その財産を存続する団体に整理して持ち込むという作業があると思えますけれども、近い将来は、常陸太田市には1つの振興公社でいいのではないかとということで、この統合についての提案をしておきます。

以上、何点か2回目の質問をいたしまして、私の一般質問を終わりにしたいと思います。

議長（高木将君） 答弁を求めます。産業部長。

〔産業部長 小林平君登壇〕

産業部長（小林平君） 再度の質問にお答えいたします。

まず1点目でございますが、観光客減少の要因分析しているのかというようなこと
でございますが、これにつきましては、これまでの観光対象、こういうものが史跡や景観など
を目的に旅行するのが主となっておりますが、近年はこれらに加えて、体験型の施
設と併用した旅行などに、観光の需要、こういうものが変更してきていることが要因では
ないかと推測されるところでございます。

市といたしましても、これらに対応し、新たな誘客を進めるためにも、県また関係機関、
団体とともに、エコミュージアムやグリーン・ツーリズムの関連事業を進めてまいりたい
と考えております。

次に、観光の専用ホームページ、こういうものがどうなっているかというようなこと
でございますが、これにつきましては、現在、このホームページの開設を進めているところ
でございますが、この運用については、できれば7月中くらいには運用を開始できるよう、
現在、細部の調整を行っているところでございます。

次に、第三セクターの見直しというようなことにあわせての施設の課題等ござい
ますが、課題としましては、施設経営での収益性の悪いところ、こういうものがあるとい
うようなところでございまして、観光関連施設では、県北地区、他市町、やはり同様な状
況で、市内への入り込み客の低迷、こういうものが続いておりまして、市内各施設の利用
者の減少や1人当たりの消費額、こういうものの減少、こういうものが低迷要因と考えら
れております。

これから観光客の誘致対策並びに消費者単価の引き上げに関する対策を検討・協議する
とともに、人件費など諸経費の一層の削減に努めるなど、経営改善に努めるよう指導して
まいります。

バイオマスリサイクルセンターの現況課題としましては、バイオ炭の原料確保でありま
す。市、県、指定管理者において、経営改善計画の実効性を確保するための支援体制を
図ってまいります。今後は経営改善実施計画書等に基づいた事業を積極的に展開し、目標達
成に向けて取り組むよう指導してまいります。

以上でございます。